



# 新庄小学校だより 10月号



## なすことによって学ぶ

校長 山口 浩二

夏休みの自由研究の作品が各教室の廊下に展示され、校内でお互いの学びについて共有しました。作品を見て回っていると、個性豊かな取り組みが多く感心させられました。中には、昨年度の自由研究で取り組んだ内容について、再度挑戦してきた子供もいました。ブーメランの形状や飛ばし方などを工夫し、昨年度よりも戻ってくる確率の高い作品を仕上げてきたようです。まだ、本人なりに納得のいく作品には仕上がっていないようですが、そのあきらめずに学ぶ姿勢がとても立派だと思いました。

体育の授業を紹介します。子供たちが体育館の床においた的（フラフープ）を狙ってお手玉投げをしています。グループの仲間から離れたところにいた A さんでしたが、自信がないのか不安げな表情で合流してきました。まず 1 投目は的に向かって、思い切り腕を振って球を投げました。しかし勢いが強く、球は大きく転げ出てしまいました。2 投目の順番になりました。今度は、腕の振りを少し弱めるようにして球を投げました。それでも球は的から転げ出てしまいました。いよいよ 3 投目。今度は腕を振らずに手首だけで投げました。すると、的の中に玉が入ったのです。その瞬間、A さんの表情がパッと明るくなりました。

何気ない授業の一場面ですが、子供には問題解決の力が備わっていることを改めて実感することができました。「なすことによって学ぶ（Learning by Doing）」とはデューイの言葉ですが、まさに子供たちは、自分なりの納得に向かって行動し、主体的に学んでいるようです。

さて「やれば自分にもできる」「努力や工夫をしたらきつとうまくいく」と、子供が前向きに物事に取り組むようになるための視点として、ある教育学者が次の 3 点を挙げていました。

- ・がんばりに応じて望む結果が得られた経験
- ・他人との比較ではなく、以前の自分と比べて伸びた部分が評価される経験
- ・成功に対して、それをもたらした努力に焦点を当てて賞賛される経験

やはり、大事なことは子供の自己肯定感を高めることであり、経験の質がポイントになってくるようです。学校としても評価の場面に留意していく必要性を感じました。変化の激しい社会を生き抜いていくために、他者と協働していくことは大事です。同時に、子供たちには自身の行動力で切りひらいていくたくましさも身に付けてほしいと願っています。

ある町内会の会長様よりお手紙をいただきました。夏休みに実施された「ふるさと富山美化大作戦」において、本校児童が参加し、町内会の皆様とともに美化活動に努めたとの内容でした。貴重な経験をさせていただいておりますことに感謝いたしますとともに、地域の皆様方には、今後も引き続き、新庄っ子のためにご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。